

序 文

遠藤 俊郎¹ 滝 和郎²

近年、頭頸部の血管狭窄症の治療の進歩は目覚ましい。まず画像診断により、より正確に脳血栓、脳塞栓症の鑑別診断ができ、またその脳循環病態が的確に判断できるようになった。内科的治療では高血圧、高脂血症、糖尿病、不整脈などのリスクに対する診断ならびに治療法がすすみ、抗血小板療法、抗凝固療法、線溶療法についてのガイドラインが整備され内科治療は大変進歩してきている。また頸動脈狭窄・閉塞症や頭蓋内血管狭窄・閉塞症にたいして、外科的な治療も術前後の管理、術式が成熟し、治療成績が向上している。また血管内治療

においてステントの薬事承認がなされ多くの症例が血管内で治療されるようになり、また頭蓋内血管形成術の知見も積み重ねられてきた。このように多くのアプローチで頭頸部・頭蓋内脳血管病変が治療されるようになった現在、このシンポジウムは大変タイムリーな企画であった。この分野で日本を代表される先生方のご講演をいただき、現在のコンセンサスと進歩状況を確認するには大変有益であった。関連各位の益々のご活躍により、この分野の医療がさらに安全・確実に進歩することを期待している。

¹富山大学医学部大学院医学薬学研究部脳神経外科学

²三重大学医学部脳神経外科